

2006 年度

科目名 日本文学を読む A	対象学科・学年 文学部日文1回生 文学部英米1回生 文学部文財1回生 人間人社1回生	担当者 鈴木 利一
授業テーマ 古代の説話・物語を読む		
授業の概要と目標 この講義で扱う日本文学とは、古代日本の神話や説話のことです。これらの作品には、当時の人々の暮らしの様子や世界観が活き活きと描写されています。こうした古代の文学作品を読み進めていく中で、古代日本社会とその文化への新たなイメージを獲得しましょう。そして、古典文学から得られる感動の世界に親しんでみましょう。		
評価方法 年2回のレポートに加えて随時課題を指示しますので、その提出物（40%）と日常の学習姿勢（20%）、出席状況等（40%）によって総合的に評価します。		
テキスト 講義時に配布する、教材・資料を用います。	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 古代神話の世界（15 週程度） 前期は古事記・日本書紀・風土記に記録される日本神話から、昔話や説話文学にも通じる要素を読み取り、古代文学の基層世界を展望します。また、古事記や日本書紀の物語に付随する歌謡等についても取り上げ、読んでいきます。 取り上げる神話は、「天地創世」「国生み」「黄泉国訪問」「スサノヲの流浪」「天孫降臨」「海幸山幸」「蘇民将来と茅輪」「三輪山神話と箸墓伝承」「アメノヒボコの渡来」「ヤマトタケル」「天女の羽衣」「相撲の起源」「殉死と埴輪の起源」等の予定です。 講義の性格上、作品を理解するために、時代背景や神社、仏閣、史蹟等の話題が多くなります。また、同じ理由で旧暦に由来する年中行事や祭礼等に関する知識も必要になります。各講義のはじめに、そうした古典文学に関連する周辺事項の解説や参考書籍等の紹介も行い、より深い作品理解への到達を目指します。		